

北興化学工業株式会社

2026年11月期 第2四半期(中間期)
決算説明資料

2026年7月10日

東証スタンダード 証券コード4992


決算説明資料目次

I .2026年11月期 第2四半期(中間期)決算 ハイライト	2
II 第2次3カ年経営計画 (2024年度～2026年度)への取組状況	7
III.【参考資料】 2026年11月期 第2四半期(中間期)決算 データ編	13


I 2026年11月期
第2四半期(中間期)決算
ハイライト

<1. 連結業績 概況 >


売上高

32,849百万円 **増収**
 (前期比: +2,183百万円、+7.1%) 


経常利益

4,657百万円 **増益**
 (前期比: +698百万円、+17.6%) 

営業利益

4,184百万円 **増益**
 (前期比: +527百万円、+14.4%) 

親会社株主に帰属する中間純利益

3,380百万円 **増益**
 (前期比: +580百万円、+20.7%) 

➤ 売上高

農薬事業における販売が順調に推移したことから、**増収**

◆農薬事業は、国内販売が順調に推移。これまでの普及推進活動の成果に加え、水稻剤は前年に続き防除意欲が高いことも後押しとなり、園芸剤は除草剤ザクサ液剤が伸長。海外販売も主にインド、ブラジル向けが増加し、前倒し受注の影響もあり、**増収**。為替円安も寄与。

◆ファインケミカル事業は、樹脂分野におけるその他樹脂原料が需要回復により増加したものの、医農薬分野における取引先の需要変動や需要時期の後ろ倒し、電子材料分野における取引先の在庫調整の影響により、**減収**

◆繊維資材事業は、**ほぼ前期並み**

➤ 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する中間純利益

営業利益は、農薬事業の売上高増加および利益率の向上により、**増益**

経常利益は、為替差益の計上(27百万円、前期は為替差損111百万円)により、**増益**

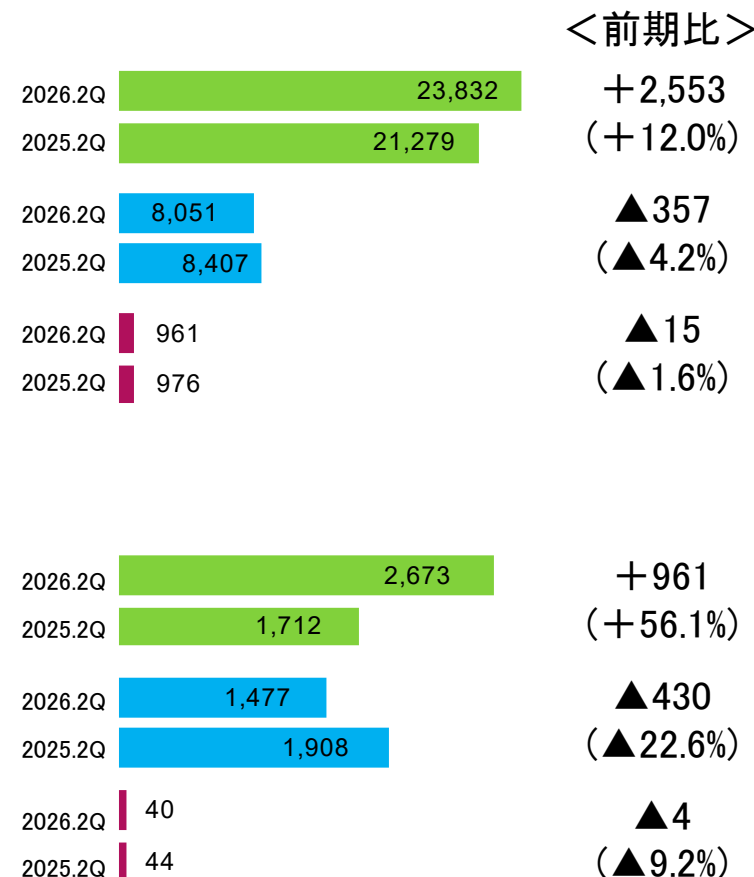
親会社株主に帰属する中間純利益は、投資有価証券売却益の計上(237百万円)により、**増益**



<2. 連結業績:セグメント別 ①2026年11月期第2四半期(中間期)概況>

	2025年度2Q	2026年度2Q
売上高	30,666	32,849
農薬事業	21,279	23,832
ファインケミカル事業	8,407	8,051
繊維資材事業	976	961
その他	3	6
営業利益	3,657	4,184
農薬事業	1,712	2,673
ファインケミカル事業	1,908	1,477
繊維資材事業	44	40
その他	▲6	▲6

(単位:百万円)



<参考> 営業利益の連単差

2026年度 236百万円(連結4,184-単体3,949)

2025年度 288百万円(連結3,657-単体3,369)

前期比 ▲53百万円

※中国子会社:主力製品での価格競争の影響を受け減益



北興化学工業株式会社

<2. 連結業績:セグメント別 ②農薬事業>

売上高

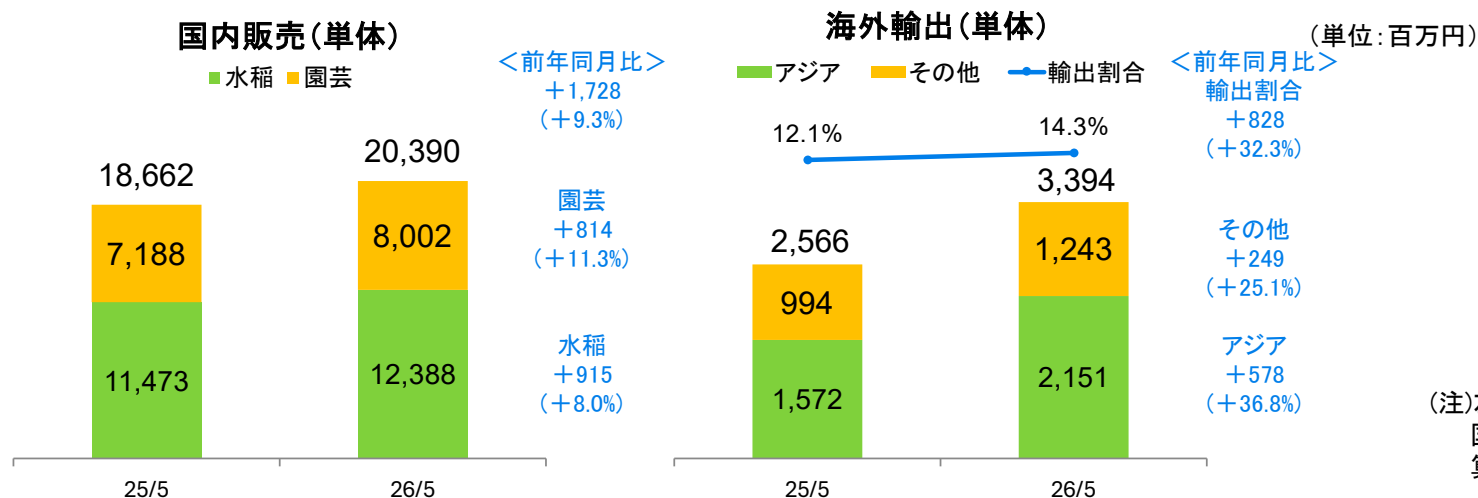
23,832百万円(前期比: +2,553百万円、+12.0%)

増収 

営業利益

2,673百万円(前期比: +961百万円、+56.1%)

増益 



(注)左記の水稲・園芸別売上高は、国内農薬の総売上高比率により算出した、経営管理上の数値です。

- 国内販売(受託含む)
 - ・水稲剤(主に除草剤および水稲育苗箱剤)は、前年に続き防除意欲が高いことも後押しとなり増加
 - ・園芸剤は、主に除草剤ザクサ液剤が伸長し増加
- 海外輸出
 - ・アジア(主にインド・中国)および中南米(主にブラジル・コロンビア)向けの輸出が伸長し、前倒し受注の影響もあり増加。円安も寄与
 - ・天然物由来のカスガマイシン(海外輸出売上高の約8割)が伸長
- 営業利益:売上高の増加、利益率向上により増益。海外輸出の増加、生産数量増による固定費比率低減が寄与

<参考>

(単位:百万円)

	2025年度 中間期	2026年度 中間期
営業利益	1,712	2,673
受取手数料* (営業外収益)	201	249
受取手数料込 営業利益	1,913	2,921

*製品の普及拡大支援のため、仕入れ先から受け取る手数料。経営管理上、営業利益に加算して管理。

<2. 連結業績:セグメント別 ③ファインケミカル事業>

売上高

8,051百万円(前期比: ▲357百万円、▲4.2%)

減収

営業利益

1,477百万円(前期比: ▲430百万円、▲22.6%)

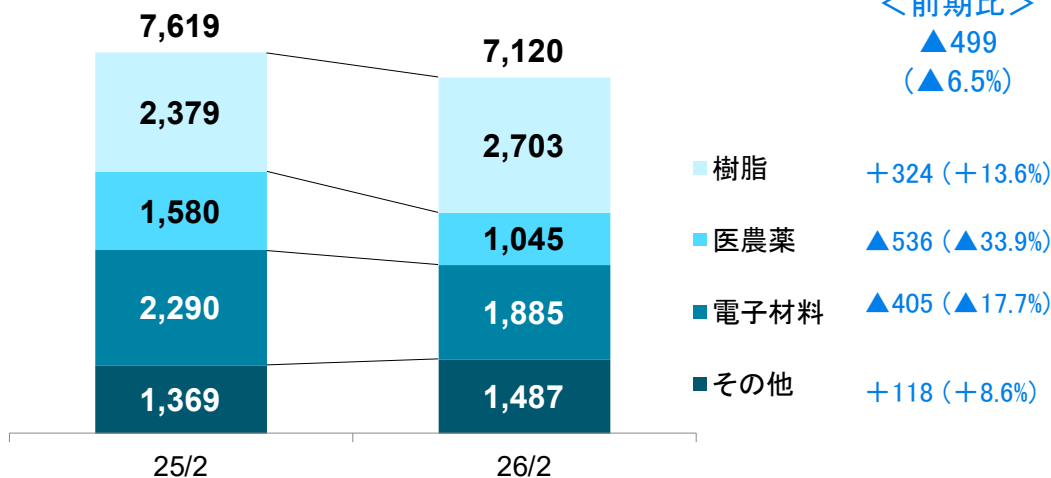
減益

分野別売上高(単体)

(単位:百万円)

<前期比>

▲499
(▲6.5%)



- 樹脂分野: その他樹脂原料(主にコンタクトレンズ用途、汎用樹脂)の需要回復により増加
- 医農薬分野: 取引先の需要変動や需要時期の後ろ倒しの影響を受けたことにより減少
- 電子材料分野: 生成AI向けが取引先の在庫調整の影響を受けたことにより減少。フォトレジスト用途のKrF向けは需要回復傾向(2Q(3~5月):前期比+92百万円)
- 営業利益: 売上高の減少により減益

<主な前年同期比増減内容>

- ◆樹脂分野: +324百万円(+13.6%)
 - ・石化用触媒: ▲80
 - ・その他樹脂原料: +386
(塗料、コーティング剤等)
- ◆医農薬分野: ▲536百万円(▲33.9%)
(原料および中間体)
 - ・医薬: ▲230
 - ・農薬: ▲306
- ◆電子材料分野: ▲405百万円(▲17.7%)
 - ・半導体関係: +101
(半導体封止材用の硬化促進剤)
 - ・フォトレジスト用途: ▲506
(うち、KrF向け+68、生成AI向け▲608)
 - ・その他: ▲8
(プリンター感光材、オフセット印刷用等)
- ◆その他: +118百万円(▲8.6%)
 - ・食品飼料: ▲32
(TPP:ビタミンA、ベータカロチン用途等)
 - ・防汚剤: +52

*分野別…総売上高を当社の判断により各分野に分類しております。なお、上記総売上高には、収益認識に関する会計基準により売上高から控除される有償支給額等(2025/5月:246百万円、2026/5月:184百万円)が含まれております。

Ⅱ 第2次3力年経営計画 (2024年度～2026年度)への 取組状況

<第2次3カ年経営計画(2024年度~2026年度)への取組状況>

1. 岡山工場のファインケミカル事業専用化(Step1)の推進

*赤下線部は2026年1月13日公表の「2025年11月期決算説明資料」からの更新事項(対比表は10ページに記載)

- KrFレジスト用原料専用の新工場建設を進めており、2027年1月竣工予定。既存工場を加えたKrFレジスト用原料の生産能力は概ね2倍になり、2032年度の同製品売上高44億円を目指す(2025年度実績16億円)
- 生産能力増強に加えて営業体制・研究開発力を強化することにより、電子材料分野(半導体素材)を軸に、ファインケミカル事業の売上高拡大を図っていく。
- 持続的な生産能力増強および原価低減に向けた生産設備の再構築が着実に進展
 - ✓イソブチレン供給設備新設(2025年7月稼働)⇒半導体素材原料の生産能力向上、原価低減
 - ✓酸化エチレンタンク新設(2026年着工済、2027年度完工予定)⇒合成反応の原料供給体制整備
 - ✓再生油ボイラー2基目(2026年度3Q完工予定)、3基目(2027年度2Q着工、4Q完工予定)
 - ⇒原価低減、省エネ
 - ✓乾燥設備の再構築(2026年着工済、2027年度完工予定)
 - ⇒医農薬分野(医薬)、電子材料分野(半導体関係)の生産性の向上、生産能力の拡大
- グリニャール反応技術の深化、新規ホスフィン配位子の開発、半導体素材ラインアップの拡充に向け、新領域の開拓に取り組む。



合成第10工場イメージ図

ファインケミカル事業の紹介動画を当社公式YouTubeチャンネルに公開しました(2025.12.01)

URL: <https://www.youtube.com/@hokkochemical>

- ・ファインケミカル事業の強み~強みは「高い技術力」~
 - ・ファインケミカル事業の主力製品「PTBST*」
- *PTBSTはKrFフォトリソレジスト用原料です。



<第2次3カ年経営計画(2024年度~2026年度)への取組状況>

2. 農薬事業の収益力向上に向けた事業の再構築

- 国内農薬の生産体制の抜本的な見直しと成長する海外市場での売上拡大を柱とする事業の再構築を推進
 - ①生産拠点の集約化に向けたロードマップを決定。北海道工場の2つの生産ラインを廃止し、岡山工場に残る1つの農薬生産ラインを新潟工場に機能集約する計画。国内農業における厳しい環境に対応し、生産体制・生産設備の最適化を図るとともに、自動化省人化の設備投資(工場および研究所)を進め、コストダウンを徹底する。また、2拠点化を見据えた北海道・新潟工場の生産設備・関連施設の再構築を計画的に進める。
 - ②成長ドライバーの自社原体イプフェンカルバゾン(水稲用除草剤)の海外登録国拡大を推進(世界最大の稲作地帯であるアジアを中心に推進。2026年度上期に2カ国(ミャンマー、インドネシア)で新規取得し、登録国は10カ国に拡大。収益性の高い海外売上高の比率を引き上げていく(海外売上高比率:14.7%(2025年度))。
 - ③製造固定費の削減(工場の効率化)を進めている中で、工場の稼働率が向上したこと等により、当期第2四半期のセグメント営業利益率が3.2%上昇。事業再構築の取り組みが着実に進展。

3. 岡山工場ファインケミカル事業専用化Step2の方向性

- 次期3カ年経営計画の専用化Step2として、農薬事業の生産体制を2拠点(北海道工場、新潟工場)に集約し、岡山工場のファインケミカル事業専用化を実現して同事業の持続的な生産能力増強を目指す
《岡山工場の農薬生産機能》
 - ①除草剤生産ライン⇒北海道工場(2022年10月新ライン竣工)に移管完了
 - ②一般粒剤(育苗箱剤)⇒新潟工場での生産開始を推進(2030年度を目途)

<第2次3カ年経営計画(2024年度~2026年度)への取組状況>

2026年1月13日公表「2025年11月期決算説明資料」からの更新事項

1. 岡山工場のファインケミカル事業専用化(Step1)の推進

生産設備の再構築

設備名	2026.01.13公表	2026.07.10公表
酸化エチレンタンク	2026年度着工予定	2026年着工済、2027年度完工予定
再生油ボイラー	2基目導入(2026年度着工予定)	2基目(2026年度3Q完工予定) 3基目(2027年度2Q着工、4Q完工予定)
乾燥設備	—	2026年着工済、2027年度完工予定 ⇒医農薬分野(医薬)、電子材料分野(半導体関係)の 生産性の向上、生産能力の拡大

2. 農薬事業の収益力向上に向けた事業の再構築

②イプフェンカルバゾン海外登録国

	2026.01.13公表	2026.07.10公表
新規取得	2025年度に3か国(パナマ、タイ、ベトナム)	2026年度上期に2か国(ミャンマー、インドネシア)
登録国数	8か国	10か国

③製造固定費の削減による影響

	2026.01.13公表	2026.07.10公表
営業利益率	2025年度において1.3%上昇	当期第2四半期において3.2%上昇

＜新たな長期経営計画(2027~2035年度)の策定について＞

- 現長期経営計画期間の中で当社は着実な成長を続けており、より長期的な視点で将来ビジョンを描くことができる基盤が構築されてきたと認識。
- 今回、将来ビジョンを「売上高1,000億円企業へ」に設定し、そのビジョンを実現するために次の9カ年で取り組む成長戦略・成長投資等を具体化・明確化する新たな経営計画を策定する方向で検討を進めている。
- 新計画は2026年11月を目途に公表する予定。

【従来の成長の壁と新たな成長ストーリー(検討方向)】

- ①農薬事業では、海外売上高は増加傾向にあるものの、依然として低い水準にある。
⇒主力原体カスガマイシンについては天然物由来の特性を活かした拡販、成長ドライバーであるイプフェンカルバゾンについては登録国拡大・普及推進を続けるとともに、研究開発投資を拡充して新たな自社原体を創製し、国内および成長する海外市場へ展開する。
- ②ファインケミカル事業では、岡山工場における新プラント建設余力が限界に達している。また、既存技術・製品に加えた新領域の開拓がなければ成長性が限られる。
⇒岡山工場に続く新たな拠点を取得し、持続的な生産能力増強(弛まぬ新プラント建設)と研究開発強化(新技術獲得、半導体素材のラインナップ拡充等)を可能とし、電子材料分野を軸に高い成長を実現する。
- ③財務の健全性強化を優先的に進めてきたことから、成長投資や研究開発投資を慎重にコントロールしてきた。
⇒底上げされたキャッシュフロー創出力および政策保有株式縮減の資金を活用し、より次世代を見据えた観点で、成長投資や研究開発への経営資源投下を拡大する。



<ご参考:現長期経営計画期間の業績推移>

長期経営計画

経営計画への着実な取組により、農薬事業・ファインケミカル事業の双方の業績が順調に推移し、特に農薬事業の業績が想定を上回っていることから、長期経営計画における連結業績目標を上方修正。

2029年度

売上高 : 修正前 520億円 ⇒ 修正後 550億円
 経常利益: 修正前 60億円 ⇒ 修正後 68億円+α
 (2026.1.13公表資料*1より)

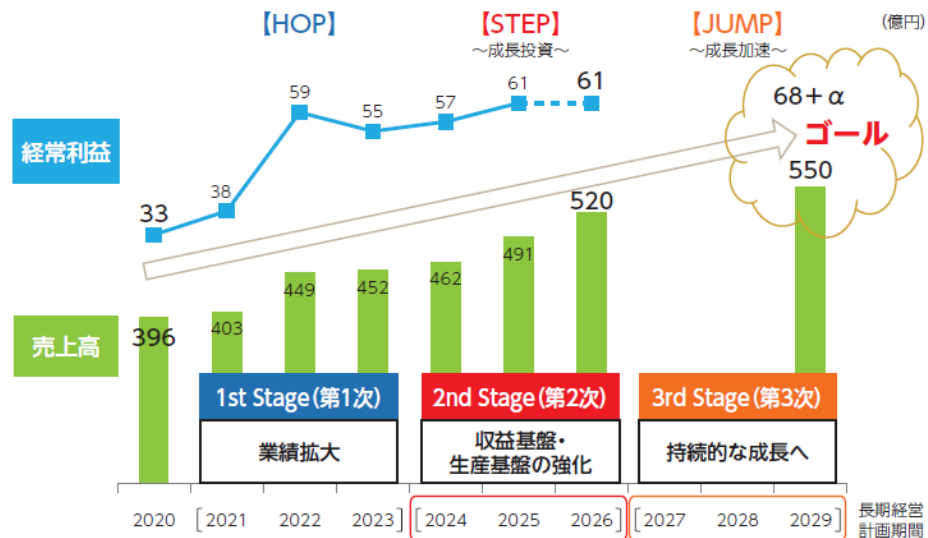
2026年11月期業績予想 *2

- ・売上高 52,000百万円
(前期比: +2,875百万円、+5.9%)
- ・営業利益 5,200百万円
(前期比: +287百万円、+5.8%)
- ・経常利益 6,100百万円
(前期比: +17百万円、+0.3%)
- ・当期純利益 4,460百万円
(前期比: +8百万円、+0.2%)
- ・配当:年間54円、前期比8円の増配を予想
(配当性向31.2%)

【業績目標とスローガン】

売上高	(2020年度) 396億円	(2029年度) 550億円	HOKKO Value Up Plan 2029 未来は創造できる ~ 強く、豊かなHOKKOへ ~
経常利益	(2020年度) 33億円	(2029年度) 68億円+α	

<<長期経営計画の2029年度業績目標を『経常利益68億円+α』に上方修正>>



2026年1月13日公表

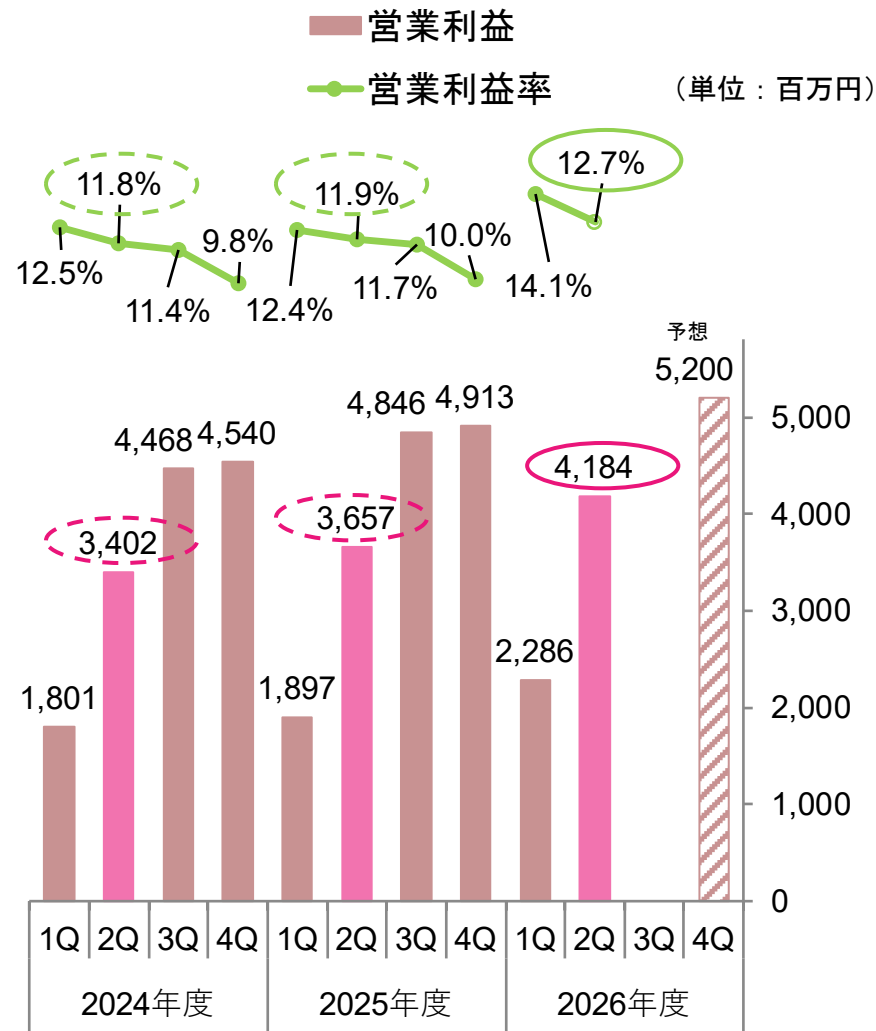
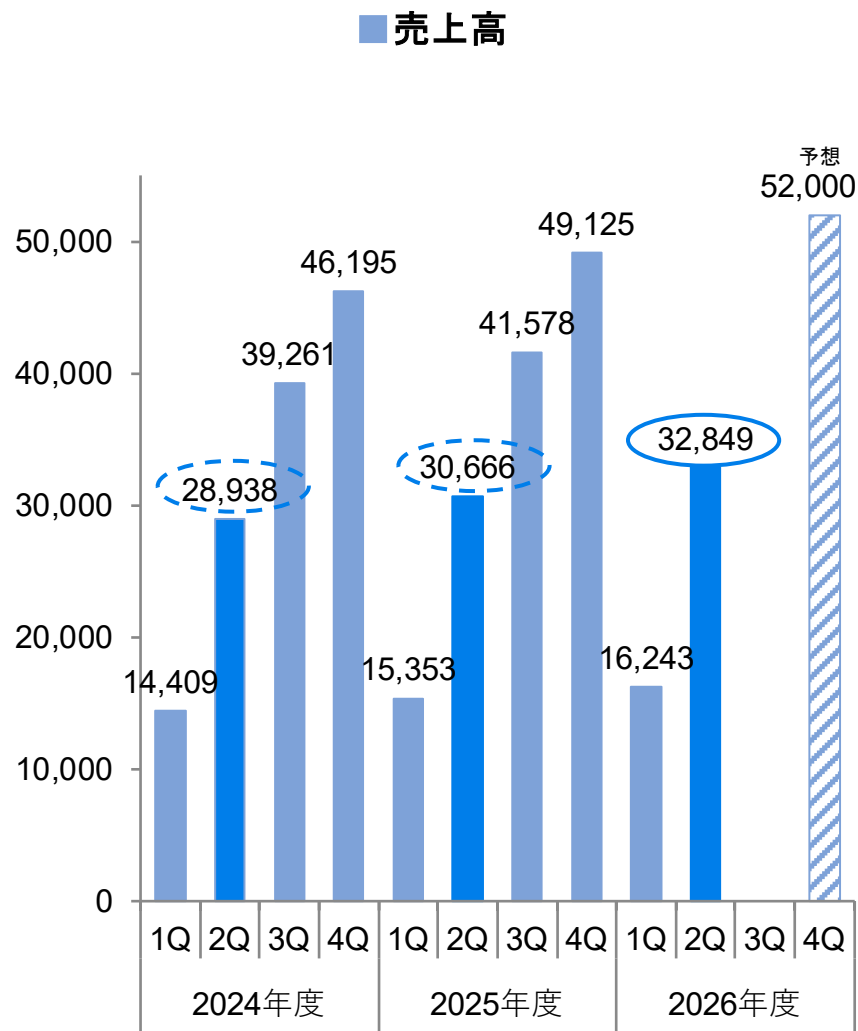
*1:長期経営計画および第2次3カ年経営計画の連結業績目標修正に関するお知らせ

*2:2025年11月期決算説明資料

Ⅲ 【参考資料】
2026年11月期 第2四半期決算
データ編

< 1. 連結業績の進捗状況 >

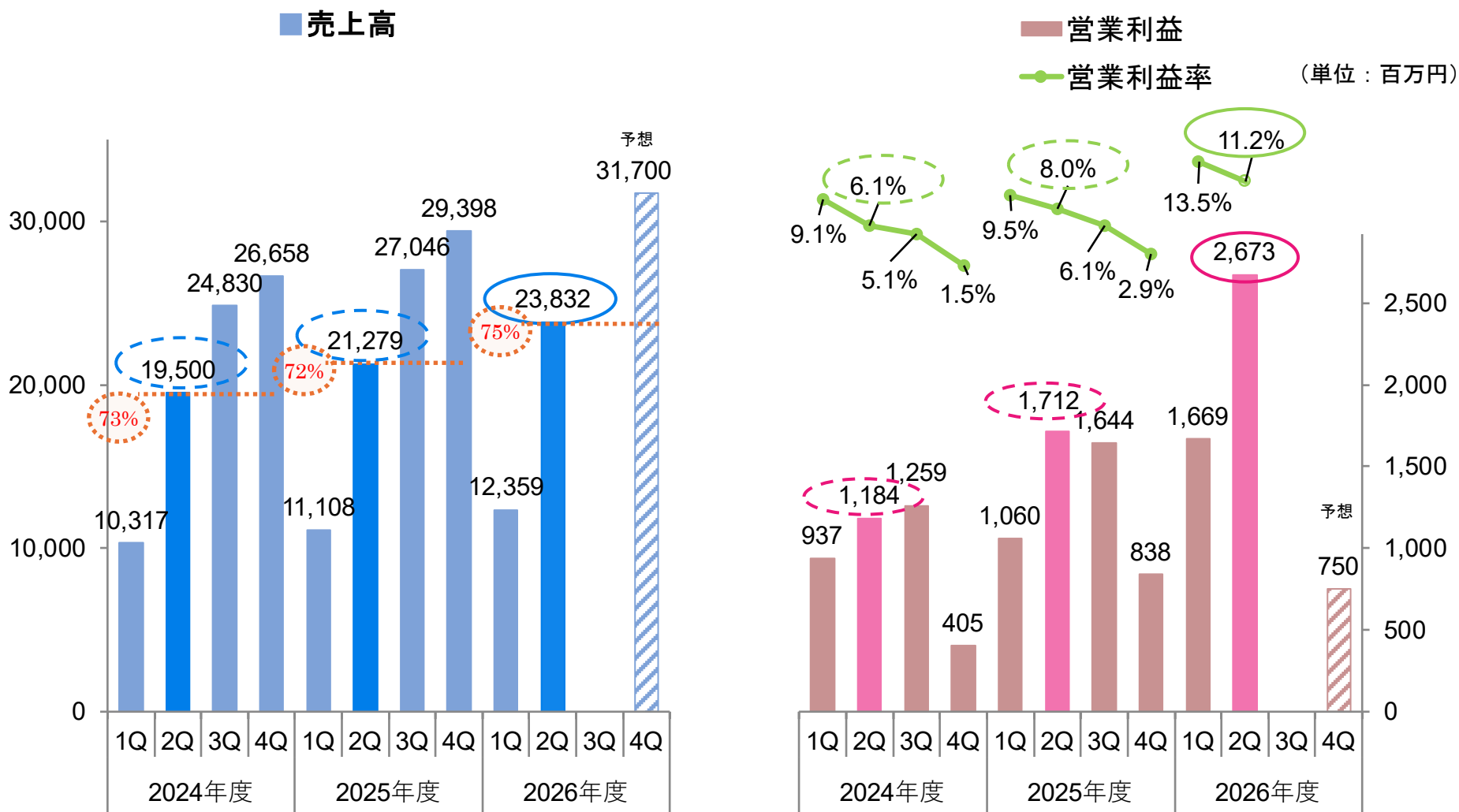
※金額は各四半期時点における累計値



<2. 連結セグメント別業績推移：農薬事業>

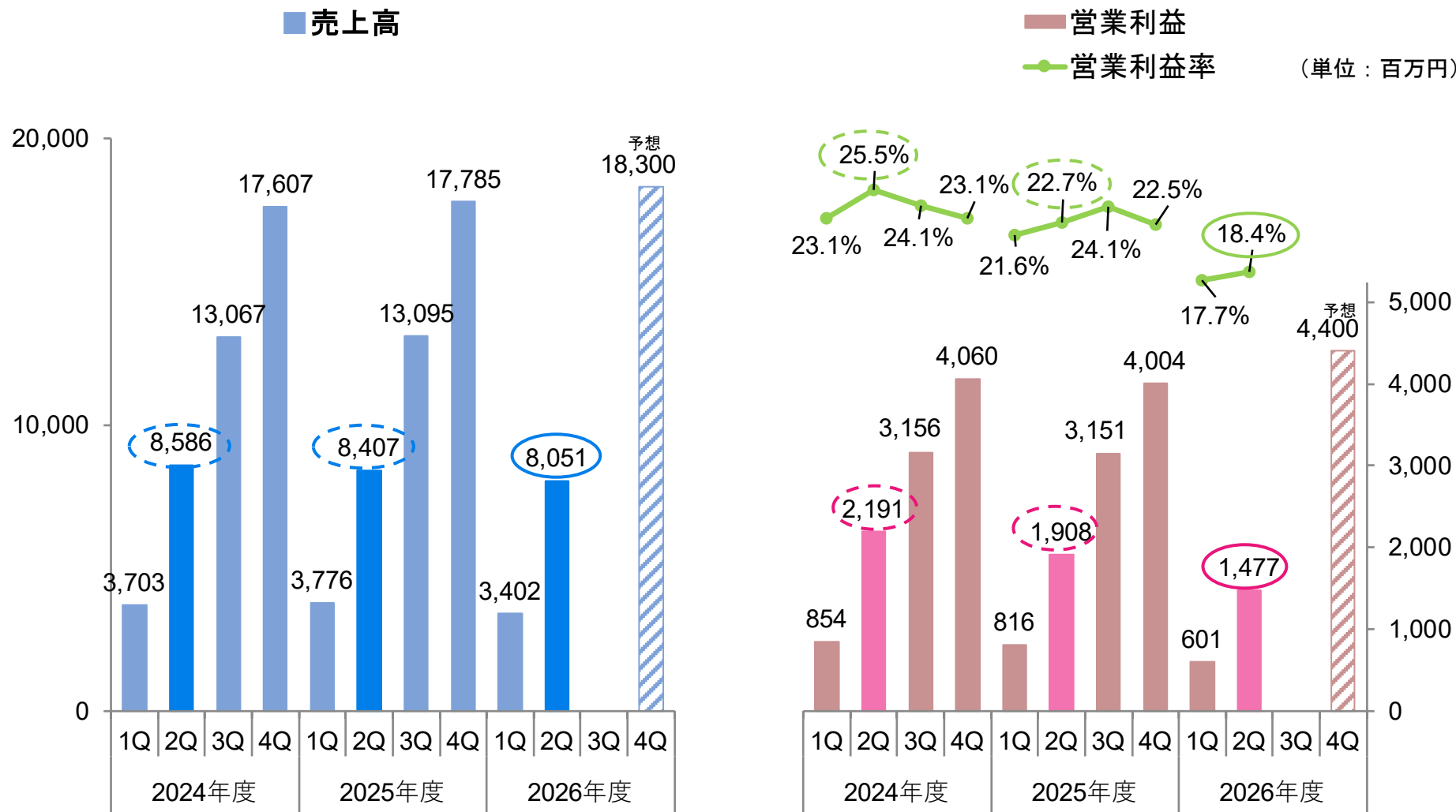
※金額は各四半期時点における累計値

農薬の販売は第1～第2四半期が主に予約販売(主に水稻剤)となり、同期間の売上高は年間売上高の約7割を占めている。第3四半期以降の農作業期(6月～9月頃まで)は、当用販売が中心となる。



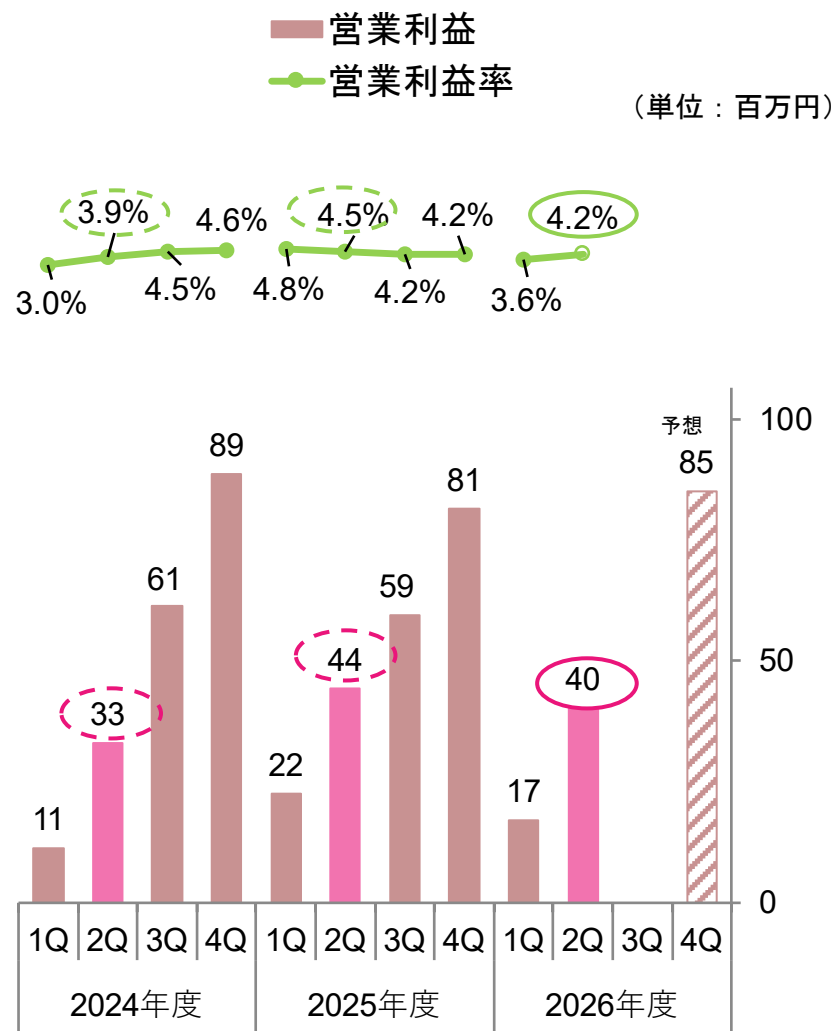
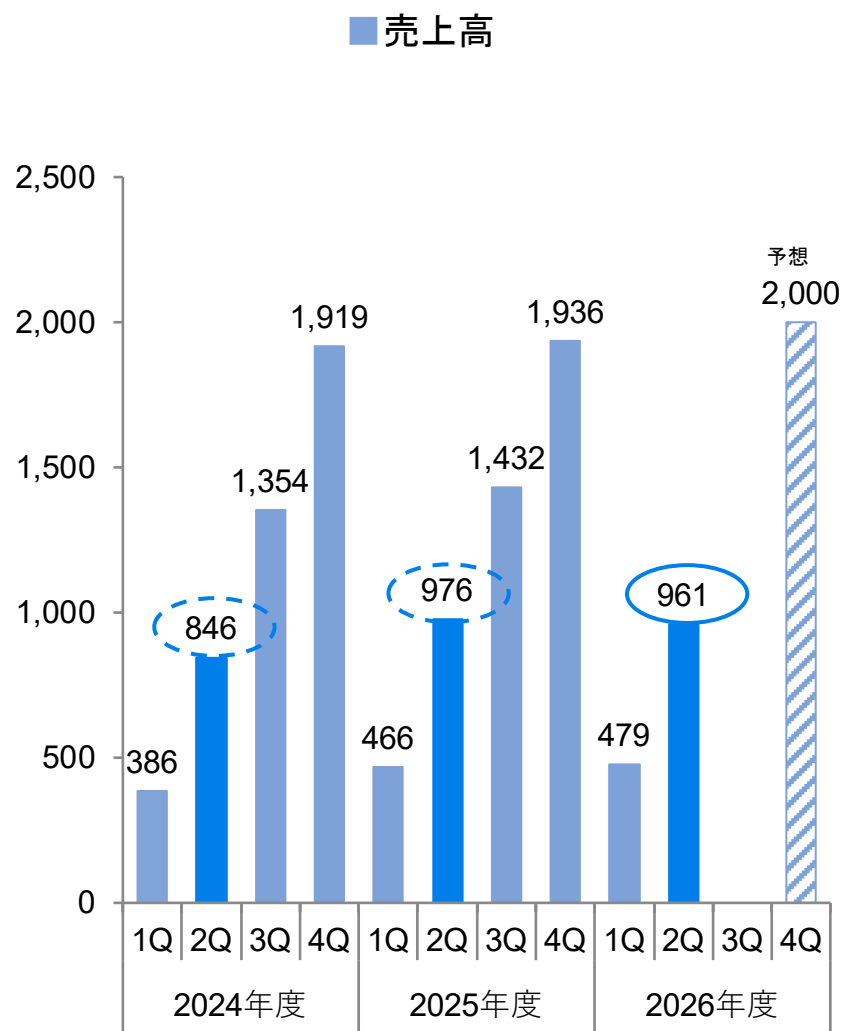
<3. 連結セグメント別業績推移：ファインケミカル事業>

※金額は各四半期時点における累計値



<4. 連結セグメント別業績推移：繊維資材事業>

※金額は各四半期時点における累計値



<5. 連結セグメント別業績推移・・・四半期毎>

第2四半期(3~5月)

- 農薬事業は、国内販売において、普及推進活動の成果に加え、前年に続き防除意欲が高いことも後押しとなり、水稻剤、園芸剤ともに好調に推移し、**増収**
- ファインケミカル事業は、樹脂分野におけるその他樹脂原料(主に汎用樹脂)、電子材料分野におけるフォトレジスト用途(KrF向け)の需要回復により、**増収**

(単位：百万円)

〔①2026年度〕

〔②2025年度〕

〔①-②前年同期比〕

セグメント	項目	〔①2026年度〕			〔②2025年度〕			(参考) 3Q	(参考) 4Q	〔①-②前年同期比〕		
		1Q	2Q	2Q累計	1Q	2Q	2Q累計			1Q	2Q	2Q累計
農薬事業	売上高	12,359	11,472	23,832	11,108	10,171	21,279	5,767	2,352	+1,251	+1,302	+2,553
	営業利益	1,669	1,003	2,673	1,060	652	1,712	▲68	▲806	+610	+351	+961
	(利益率)	(13.5%)	(8.7%)	(11.2%)	(9.5%)	(6.4%)	(8.0%)	(▲1.2%)	(▲34.3%)	(+4.0%)	(+2.3%)	(+3.2%)
ファインケミカル事業	売上高	3,402	4,649	8,051	3,776	4,631	8,407	4,688	4,690	▲374	+18	▲357
	営業利益	601	877	1,477	816	1,092	1,908	1,244	853	▲215	▲216	▲430
	(利益率)	(17.7%)	(18.9%)	(18.4%)	(21.6%)	(23.6%)	(22.7%)	(26.5%)	(18.2%)	(▲3.9%)	(▲4.7%)	(▲4.3%)
繊維資材事業	売上高	479	481	961	466	510	976	456	504	+13	▲28	▲15
	営業利益	17	23	40	22	22	44	15	22	▲5	+1	▲4
	(利益率)	(3.6%)	(4.8%)	(4.2%)	(4.8%)	(4.3%)	(4.5%)	(3.3%)	(4.4%)	(▲1.2%)	(+0.5%)	(▲0.4%)

<6. 連結業績予想対比の進捗状況>

<進捗状況>

業績予想に対する中間期の進捗率は、売上高および各利益段階においては前年同期を上回った。

〔2026年度〕

	2026年度 中間期	2026年度 業績予想	進捗率
売上高	32,849	52,000	63.2%
営業利益 (売上高比)	4,184 (12.7%)	5,200 (10.0%)	80.5%
経常利益 (売上高比)	4,657 (14.2%)	6,100 (11.7%)	76.3%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益 (売上高比)	3,380 (10.3%)	4,460 (8.6%)	75.8%

<参考:前年同期>

(単位:百万円)

	2025年度 中間期	2025年度 年間実績	進捗率
売上高	30,666	49,125	62.4%
営業利益 (売上高比)	3,657 (11.9%)	4,913 (10.0%)	74.4%
経常利益 (売上高比)	3,959 (12.9%)	6,083 (12.4%)	65.1%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益 (売上高比)	2,800 (9.1%)	4,452 (9.1%)	62.9%



本資料に記載されている業績予想・将来の見通しに関する記述等に関しましては、現時点で得られた情報に基づいて判断・算定したものであり、実際の業績は、今後のマクロ経済動向および市場環境、並びに当社グループに関連する業界動向、またその他内部・外部要因等、さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

■ お問い合わせ先

北興化学工業株式会社

企画部 IR担当

電話：03-6262-2056

FAX：03-3279-5195

